

横須賀市中小企業景況レポート

第2号（平成25年4月号）

編集・発行：横須賀市経済部経済企画課
〒238-8550 横須賀市小川町11
電話 046-822-9523

市内中小企業の景況感を調査しました。

調査対象は、三浦藤沢信用金庫と湘南信用金庫が従来から行う、景況調査先のうちの市内企業に加え、横須賀市及び横須賀市産業振興財団（以下「財団」と表記）がさらに追加調査しました。

3か月に1回発行しています。

【今回の第2号及び第1号、は、市ホームページ（下記）からもご覧いただけます。】

[横須賀市中小企業景況レポート](#) [New](#) | [横須賀市](#)

<http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/4402/keikyoreport/yokosukasikeikyuripoto.html>

- ① 調査対象：市内中小企業
- ② 調査企業数：194社（うち三浦藤沢信用金庫+湘南信用金庫 調査178社）
- ③ 調査期間：前期・・・平成24年10～12月の景況感（調査時点 平成24年12月1日）
今期・・・平成25年1～3月の景況感（調査時点 平成25年3月1日）
次期・・・平成25年4～6月の景況感（ ” ” ）
- ④ 調査項目：景況、売上額、収益、雇用人員、資金繰り
- ⑤ 業種分類：製造業、建設業、卸・小売業、不動産業、サービス業
- ⑥ 集計方法：DI値算出による（次ページにDI値の説明あり）

景況及び4項目の調査結果（全業種）

*DI値調査結果は裏面に記載

全業種の景況感は、前期の△18Pから6P改善され△12Pとなりました。

さらに次期に向けては5P改善されるという結果となりました。

今期はまだまだマイナスポイントが多い状況ですが、多くの項目で前期に比べポイントが改善しました。

業種別では、製造業が15P、不動産業が10P、サービス業が6P改善しました。

建設業は、前期とほぼ変わらず9Pとプラスポイントを維持しました。

次期に向けては、不動産業が27P、サービス業が10P、卸・小売業が6P良くなるとみています。

項目別では、売上額が今期は改善され、次期も改善されるという予測ですが、収益については、今期は10P改善したものの、次期は△1Pとの予測です。

不動産業、サービス業は、次期の収益が良くなるとの予測ですが、製造業、建設業では、収益が悪くなるとの予測です。なお、卸・小売業はほとんど変化がありません。

雇用人員については、依然として建設業などで人手不足感は解消されていません。

資金繰りについては、不動産業以外は次期も引き続きマイナスポイントと予測されています。

DI 値・・・良い（多い）、変わらない（普通）、悪い（少ない）の回答のそれぞれが全体に占める構成比を求めます。次に、良い（多い）等の構成比（%）－悪い（少ない）等の構成比（%）を計算した結果です。プラス値が大きいほど景況感が良く（好況）、マイナス値が大きいほど景況感が悪い（不況）と言えます。

特に決まりはありませんが、このレポートは次の基準で記載しました。（マイナスは△表示）

- | | | | |
|-------------------|---|--------------|---|
| ○良い：15P以上 | ↑ | ○やや良い：6P～14P | ↗ |
| ○変わらない（普通）：△5P～5P | → | | |
| ○やや悪い：△6P～△14 | ↘ | ○悪い：△15P以下 | ↓ |

業種別 調査結果と事業者の声

*DI 値調査結果は裏面に記載

(1) 製造業 Δ6 <やや悪い> ↘

景況感は前期より「良い」という声が増え、DI 値は 15P 改善しました。

特に収益は△2P となり、21P の大きな改善がみられました。一方で人手不足感は増加し、資金繰りも悪化しています。

☆事業者の主な声☆

- ・政権交代の影響は感じられない。実感できるのはまだ先になるのではないかと。
- ・自動車や鉄道車両は好調だが、半導体製造装置や射出成型機は振るわない。
- ・大手食品メーカーからの受注は旺盛で今後も期待できるが、円安による原料仕入れ額の増加リスクが高まっている。
- ・受注は多いが、単価が上がらないので収益は増えない。
- ・受発注会議には積極的に参加し、販路拡大に努めていきたい。
- ・海外向け車両部品の受注が好調。材料費が安い状況なので、次期も増収が見込まれる。

(2) 建設業 9 <やや良い> ↗

景況感は前期より「良い」も減少しましたが、「悪い」も減少し、DI 値は前期とほぼ同じでした。しかし、人手不足感は改善されず、次期収益が大幅に悪化すると予測しています。

☆事業者の主な声☆

- ・消費税増税の駆け込み需要が見込まれるため、増収を予測する。
- ・新築物件には、人件費や膨大な時間を要するため、最近では修繕に取り組んでいる。親切丁寧な仕事により信頼を得ることで、大手との差別化を図り、売上増加を目指す。
- ・民間を含め工事件数は多数あるが、人出不足のため、受注を増やせない。人員増加や人材育成が課題である。
- ・円安推移の情勢や消費税増税を鑑み、出来るだけ販路や売上げの拡大を図りたい。
- ・大口の受注は安定しているが、燃料や原材料費の高騰で利益は伸びていない。

(3) 卸・小売業 $\Delta 29$ <悪い>



景況感は前期より2P改善しましたが、5業種の中で最も悪い状況です。特に収益と資金繰りが引き続き悪いとみています。

☆事業者の主な声☆

- ・燃料費と小麦粉製品の仕入れ価格が高騰しているが、上昇分を価格に転嫁できず、利益が下がっている状況である。
- ・受注は多いが、単価が上がらないので収益は増えない。
- ・本市も含め全国的に、大規模店舗の進出により既存商店街の店舗の存続が厳しい状況にある。
- ・大手食品メーカーからの受注は旺盛で今後も期待できるが、円安による原料仕入れ額の増加リスクが高まっている。
- ・受発注会議には積極的に参加し、販路拡大に努めていきたい。
- ・価格のやや高めの商品にも動きが出るなど、消費が上向きになっていると感じている。

(4) 不動産業 $\Delta 16$ <悪い>



景況感は前期より「良い」が減りましたが、「悪い」がそれ以上に減少した結果、10P改善しました。しかしまだ悪い状況が続いています。

次期の予測は11Pで、大きく改善されることが期待されている状況です。

☆事業者の主な声☆

- ・消費税の引き上げによる駆け込み需要が感じられる。
- ・ここにきて販売は動き出した感がある。今後も好立地の物件を積極的に仕入れ、着実に利益確保していきたい。
- ・立地条件により、売れる物件と売れ残る物件が二極化している。
- ・人口の減少は、地域産業界の意欲に水を差すものであり、官民一体となって克服していかなければ、景気向上は望めない。

(5) サービス業 $\Delta 15$ <悪い>



景況感は「良い」が増加し「悪い」が減少したことで、前期から6P改善し、次期も10P改善する予測です。

雇用人員を除く他の項目も少しずつ改善が見られます。

☆事業者の主な声☆

- ・新年会、送別会等により、予想していたより利益の減少額は少なかった。
- ・米軍関係者の宿泊が見込まれるため、前年より売上げ増を予想している。
- ・震災の影響で減少していた記念写真の依頼が回復した。
- ・卒業、入学、入社シーズンのため利用者が増加した。
- ・4～6月は例年売上げが増加する時期だが、電気料金の値上げ等が懸念される。
- ・顧客一人あたりの単価が下がっているが、経費削減により利益を確保している。

DI 値 調査結果

前・・・前期 平成24年10～12月の景況感（調査時点 平成24年12月1日）
 今・・・今期 平成25年1～3月の景況感（調査時点 平成25年3月1日）
 次・・・次期 平成25年4～6月の景況感（ ” ” ）

業種別調査企業数(回答数)

(単位：社)

	全業種	製造業	建設業	卸・小売業	不動産業	サービス業
前期	209	44	38	59	19	49
今期	194	47	33	49	19	46
次期	192	46	33	49	19	45

(単位：ポイント)

項目	業種	全業種			製造業			建設業			卸・小売業			不動産業			サービス業		
		前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次
景況		景況全般について総合的な概況をお聞きました。																	
	良い(A)	19	19	20	18	30	26	34	24	30	20	16	12	21	16	32	6	9	11
	変わらず	44	50	53	43	34	39	42	61	46	29	39	53	32	52	47	67	67	73
	悪い(B)	37	31	27	39	36	35	24	15	24	51	45	35	47	32	21	27	24	16
	DI値(A)－(B)	△18	△12	△7	△21	△6	△9	10	9	6	△31	△29	△23	△26	△16	11	△21	△15	△5
	今－前、次－今	6	5	15	△3	△1	△3	2	6	10	27	6	10						
売上額		製造業については、生産品を出荷した額をお聞きました。																	
	好転(A)	21	22	22	25	34	24	29	24	16	22	21	25	16	16	37	10	13	13
	変わらず	43	44	51	39	32	43	50	58	59	34	37	40	42	42	37	55	54	71
	悪化(B)	36	34	27	36	34	33	21	18	25	44	42	35	42	42	26	35	33	16
	DI値(A)－(B)	△15	△12	△5	△11	0	△9	8	6	△9	△22	△21	△10	△26	△26	11	△25	△20	△3
	今－前、次－今	3	7	11	△9	△2	△15	1	11	0	37	5	17						
収益		売上から経費を引いた収益状況をお聞きました。																	
	増加(A)	16	16	15	18	32	23	24	12	9	15	13	10	26	21	37	4	4	7
	変わらず	42	52	53	41	34	41	44	73	57	38	41	48	16	53	47	57	66	69
	減少(B)	42	32	32	41	34	36	32	15	34	47	46	42	58	26	16	39	30	24
	DI値(A)－(B)	△26	△16	△17	△23	△2	△13	△8	△3	△25	△32	△33	△32	△32	△5	21	△35	△26	△17
	今－前、次－今	10	△1	21	△11	5	△22	△1	1	27	26	9	9						
雇用人員		需要に対応できる労働状況をお聞きました。																	
	多い(A)	6	4	6	21	9	9	0	0	0	5	6	10	0	5	5	2	0	2
	適正	71	72	72	53	59	63	58	58	67	78	79	72	84	90	90	82	80	80
	少ない(B)	23	24	22	26	32	28	42	42	33	17	15	18	16	5	5	16	20	18
	DI値(A)－(B)	△17	△20	△16	△5	△23	△19	△42	△42	△33	△12	△9	△8	△16	0	0	△14	△20	△16
	今－前、次－今	△3	4	△18	4	0	9	3	1	16	0	△6	4						
資金繰り		資金繰りが上手く行っているかを判断するためお聞きました。																	
	楽である(A)	7	6	6	9	9	4	8	6	0	5	2	2	11	11	16	6	7	11
	さほど苦しくない	68	68	72	71	59	68	74	73	76	58	63	69	78	73	79	70	73	73
	苦しい(B)	25	26	22	20	32	28	18	21	24	37	35	29	11	16	5	24	20	16
	DI値(A)－(B)	△18	△20	△16	△11	△23	△24	△10	△15	△24	△32	△33	△27	0	△5	11	△18	△13	△5
	今－前、次－今	△2	4	△12	△1	△5	△9	△1	6	△5	16	5	8						

〈参考〉昨年同期と現在の売上比較(194社中 98社が回答)

	企業数	今期構成比	(参考) 前期構成比
昨年と比べ「売上額」が増加(A)	25 社	25.5 %	26.3 %
昨年と比べ「売上額」が変わらない、横ばい	29 社	29.6 %	30.3 %
昨年と比べ「売上額」が減少(B)	44 社	44.9 %	43.4 %
DI値(A)－(B)		△19.4 P	△17.1 P